

# 各避難施設

日頃から確認！  
災害時慌てないようにしよう。



## 一次避難施設

AED 設置施設 防災無線有り 発電機配備  我が家の避難所チェック (いざというときの集合場所に印)

### A 橋場分館 (橋場地区一次避難施設)



**住所** 大桑村須原1425-1  
**電話番号** 94-9004(IP)  
**建築年度** 昭和初期  
**収容人数** 35名

**備考** 急傾斜地の崩壊警戒区域内なので、やむを得ない場合の一次避難施設として使用してください。ここから二次避難施設(大桑中学校体育館)に避難します。

### B (株)IHI ターボ敷地内 (橋場地区一次避難施設)



**住所** 大桑村須原1417  
**電話番号** 0264-55-2255  
**建築年度** 昭和37年  
**収容人数** 452名

**備考** 橋場地区の中でも IHI ターボ近隣住民の一次避難施設です。ここから二次避難施設(大桑中学校体育館)に避難します。

### C 道の駅大桑 (野尻地区一次避難施設)



**住所** 大桑村野尻160-27  
**電話番号** 0264-55-4192  
**建築年度** 平成6年  
**収容人数** 110名

**備考** 土砂災害警戒区域内及び急傾斜地の崩壊警戒区域が隣接しているため、やむを得ない場合の一次避難施設として使用してください。ここから二次避難施設(野尻地区館・大桑小学校)に避難します。

## 福祉避難施設

### E 大桑村デイサービスセンター



**住所** 大桑村殿1014  
**電話番号** 0264-55-2700  
**建築年度** 平成3年  
**収容人数** 30名 (受け入れ可能人数)

**備考** 避難施設 7 と重複しますが、福祉避難施設として利用できます。特に高齢者・要介護者に必要な設備が整っています。ただし、受け入れ人数に限りがあるので注意してください。

### F サンシャインあてら



**住所** 大桑村野尻931-1  
**電話番号** 0264-55-1105  
**建築年度** 平成18年  
**収容人数** 35名 (受け入れ可能人数)

**備考** 高齢者・要介護者に必要な設備が整っており、災害が想定される区域に入らない優良な福祉避難施設です。ただし、受け入れ人数に限りがあるので注意してください。

## 避難施設一覧

使用条件凡例 ● 警戒区域影響範囲外 ▲ 土砂法での警戒区域内 × 浸水想定区域内のため使用不可

### 1 和村分館

避難対象地区 和村地区



**住所** 大桑村殿316-2  
**電話番号** 94-9002(IP)  
**建築年度** 昭和11年  
**収容人数** 50名

使用条件		
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	
▲	●	-

**備考** 道幅が狭いため交通にやや難有り。耐震診断・耐震改修未実施。土砂災害時の使用は注意してください。

### 2 村民体育館

避難対象地区 須原地区全域



**住所** 大桑村殿1-24  
**電話番号** 0264-55-1020  
**建築年度** 昭和54年  
**収容人数** 1490名

使用条件		
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	木曾川浸水想定区域
●	●	×

**備考** 木曾川警戒水位を超えた場合は、使用ができなくなる可能性があるため注意してください。

### 3 須原地区館

避難対象地区 須原地区・上郷地区・和村地区



**住所** 大桑村須原962-2  
**電話番号** 94-9001(IP)  
**建築年度** 平成18年  
**収容人数** 216名

使用条件		
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	
●	●	-

**備考** 広さ・設備・安全性は十分、優良な避難施設です。大桑保育園隣接。

### 4 伊奈川分館

避難対象地区 伊奈川地区



**住所** 大桑村長野168-1  
**電話番号** 94-9003(IP)  
**建築年度** 昭和54年  
**収容人数** 42名

使用条件		
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	
▲	▲	-

**備考** 土石流警戒区域内、及び急傾斜地警戒区域が隣接しているため使用には十分注意してください。

### 5 大島分館

避難対象地区 大島地区



**住所** 大桑村須原1492-1  
**電話番号** 94-9005(IP)  
**建築年度** 昭和30年  
**収容人数** 36名

使用条件		
土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	
●	●	-

**備考** 小規模ですが、災害による影響が低い避難施設です。音声告知機が設置されています。

## 6 大桑中学校体育館

我が家の避難所

避難対象地区 長野地区全域



住所 大桑村長野891-1  
電話番号 0264-55-3039  
建築年度 平成4年  
収容人数 793名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	●	-

備考

広さ・設備・安全性は十分、優良な避難施設です。AEDと大出力ではありませんが、発電機も設置されています。橋場地区の二次避難施設にもなります。

## 7 大桑村デイサービスセンター

我が家の避難所

避難対象地区 小川・下落地区



住所 大桑村殿1014  
電話番号 0264-55-2700  
建築年度 平成3年  
収容人数 511名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	●	-

備考

一部急傾斜地警戒区域に接するため使用には注意してください。

## 8 殿中集会所

我が家の避難所

避難対象地区 殿中地区



住所 大桑村殿1863-2  
電話番号 94-9035(IP)  
建築年度 昭和53年  
収容人数 24名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	▲	-

備考 (殿分館は災害発生時使用不可)

土砂災害時、殿分館使用不可のための代替施設です。急傾斜地警戒区域内あり避難対象地区人数に対して収容人数が少ないので注意してください。

## 9 殿下集会所

我が家の避難所

避難対象地区 殿下地区



住所 大桑村殿2105-2  
電話番号 94-9036(IP)  
建築年度 昭和58年  
収容人数 46名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
●	●	-

備考 (殿分館は災害発生時使用不可)

土砂災害時、殿分館使用不可からの代替施設で、比較的安全な避難施設です。避難対象地区人数に対して収容人数がやや少ないので注意してください。

## 10 保健センター

我が家の避難所

避難対象地区 西地区・中地区・弓矢地区



住所 大桑村長野2775-6  
電話番号 0264-55-4003  
建築年度 昭和60年  
収容人数 131名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	▲	-

備考

急傾斜地の崩壊及び土石流警戒区域内のため使用には注意してください。医療設備、室内スペースは十分。高齢者、交通弱者には適した避難施設です。

## 11 大桑小学校体育館

我が家の避難所

避難対象地区 野尻地区全域



住所 大桑村野尻2099-1  
電話番号 0264-55-2039  
建築年度 平成14年  
収容人数 594名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	●	-

備考

土石流警戒区域内のため使用には注意してください。設備・広さは優良な避難施設といえます。

## 12 野尻向分館

我が家の避難所

避難対象地区 川向地区・阿寺地区



住所 大桑村野尻589-6  
電話番号 94-9013(IP)  
建築年度 昭和59年  
収容人数 54名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	木曾川浸水想定区域
▲	●	×

備考

木曾川浸水想定区域内のため警戒水位を超えた場合の使用はできません。

## 13 野尻地区館

我が家の避難所

避難対象地区 上町・旭町・本町・横町・新田地区



住所 大桑村野尻1435-7  
電話番号 0264-55-2214  
建築年度 平成12年  
収容人数 190名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	●	-

備考

土石流警戒区域内のため使用には注意してください。設備・広さは優良な避難場所といえます。

## 14 下在郷分館

我が家の避難所

避難対象地区 下在郷地区



住所 野尻 2711  
電話番号 94-9012(IP)  
建築年度 平成26年  
収容人数 189名

使用条件

土石流警戒区域	急傾斜地警戒区域	-
▲	-	-

備考

一部土砂災害警戒区域に接するため使用には注意してください。

## 大事です！避難するときの心づかい。

障害を持つ方をはじめ、心身に衰えのある高齢者、乳幼児、長野県の生活習慣や土地勘に不慣れである人、日本語による情報が理解しにくい外国人は、自力での避難が困難なので周囲からの支援が必要です。災害が発生したときは声を掛け合い、お互い協力しましょう。また要介護者の視点に立って、警報や避難勧告の伝達方法が確保されているか、車椅子で避難経路を通れるか、障害物や段差はないか、要介護者が避難生活を送るのに必要な支援体制が整っているかも確認しましょう。

## 避難施設での協力

被災者が多く集まる避難施設では見ず知らずの人との集団生活で体調を崩す人もいます。避難施設でできるだけ快適に過ごせるよう皆で協力することが大切です。被災すると普段の半分程度しか力を発揮できません。お互いに支え、人間関係を大事にすることで生きる力が湧いてきます。人と適切な距離をおきながら声を掛け合いましょう。